






学部長	所属長	本部長	副本部長	室長
				

令和4年 3月 15日

理事長 殿

学 長 殿

令和3年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症
対策支援プロジェクト研究報告書

標記の件に関しまして、別紙のとおり報告いたします。

また、本研究報告の内容は、近畿大学学術情報リポジトリ（KURepo）に公開する旨、承諾いたします。

1. カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 研究 <input type="checkbox"/> 開発・提案 /カテゴリーNo 6
2. 企画題目	新型コロナウイルス感染症の環境下における遠隔診療の普及調査

研究代表者

所 属： 医学部 遺伝子診療部職・氏名： 准教授 西郷 和真 

令和3年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	新型コロナウイルス感染症の環境下における遠隔診療の普及調査
研究者所属・氏名	研究代表者：西郷和真 共同研究者：池川敦子 小田いつき

1. 研究、開発・提案 目的及び内容

新型コロナウイルス感染症環境下における遠隔診療の普及調査についての実体調査を行う。特に近畿大学病院遺伝子診療部における特色が活かされる、遺伝カウンセリング診療についての全国の大学病院を中心にアンケート調査を行う予定である。

新型コロナウイルスに感染した人や、感染リスクの高い人に対して、遺伝カウンセリング診療を提供できる医療機関は現在の所、非常に少ない。しかしながら、その利用者は今後、急速に拡大する事が予想されている。これらの視点に注目して、新型コロナウイルス感染症の蔓延下におけるオンライン診療の導入割合や、その導入時期などのアンケート調査をすることで、社会的な情報共有、そのフィードバックによる当院の立場なども踏まえて検討する。

2. 研究、開発・提案 経過及び成果

大学病院と厚生労働省関連のナショナルセンター等の140施設を対象に、ホームページを検索し、オンライン診療やオンライン遺伝カウンセリング診療の導入割合を調査した。さらに、各医療機関のホームページの見やすさやオンライン診療の予約のしやすさを調べた。ホームページの見やすさの判断は10項目のリスト、予約のしやすさは5項目のリストを作成し、それぞれ秀優良可の4段階で評価を行った。その結果、オンライン診療を実施していたのは6.4%(9施設)、オンライン遺伝カウンセリング診療を実施していたのは3.6%(5施設)という結果となった。また、オンライン診療とオンライン遺伝カウンセリング診療の両方を実施していたのは0.7%(1施設)であった。さらに、オンライン遺伝カウンセリング診療を含めるオンライン診療実施施設において、ホームページの見やすさでは秀優良が全体の92.4%を占めていた。一方で、予約のしやすさは可が全体の92.3%を占めており、低評価となった。今回の我々の調査により、オンライン診療を実施している施設は非常に限られていることが分かった。

3. 本研究と関連した今後の研究、開発・提案 計画

米国では68.3%の施設がオンライン遺伝カウンセリング診療を実施しているとの報告がある。オンライン遺伝カウンセリング診療の実施により、遺伝カウンセリング外来よりも円滑に血縁者との情報共有が可能であると考えられる。今後、当院でも院内で遠隔診療、遠隔遺伝カウンセリングが実施できるように検討していく。今後、日本でも更なるオンライン診療の普及が期待される。

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
日本遺伝カウンセリング学会	口頭発表	2022年7月予定
日本人類遺伝学会	口頭発表	2022年12月予定

5. 研究、開発・提案 課題の成果発表等

上記、研究成果を日本遺伝カウンセリング学会、日本人類遺伝学会等にて発表する予定である。